

剣山サポータークラブとは？

沿革

剣山サポータークラブは、剣山国立公園を「地域の宝」として未来へ継承していくため、平成26年に設置したものです。

会員

入会届を出せば、個人・団体 **どなたでも** 会員になれます。会費無料。

事務局

徳島県西部環境保全室 環境保全担当

役割

サポーターは、**自分にあったスタイル**で活動に参加し、剣山国立公園を支援していくものです。ホームページ等でお知らせする、剣山国立公園周辺での活動情報を参考に、**自分ができる活動**にご参加ください。メールアドレスをお知らせいただいている方には、イベント情報等を電子メールでお知らせします。

活動内容

ニホンジカ食害防護柵管理作業、剣山自然保護ボランティア活動体験ツアー、剣山トレッキング・保全作業体験ツアー、剣山の植生及び動物調査講座、剣山登山道現地調査、三嶺登山道補修、活動報告パネル展など。



剣山国立公園

昭和39年3月3日に国立公園に指定。自然公園法に基づき国立公園に準ずる自然の風景地を保護し、自然とのふれあいを増進するため指定されました。剣山や三嶺を中心とした山岳地や祖谷溪、大歩危・小歩危をなど溪谷美が見所です。

切り取り線

剣山サポータークラブ 入会届

提出先 【郵送】 〒779-3602 徳島県美馬市脇町大字猪尻字建神社下南73
徳島県西部環境保全室 環境保全担当 宛て
【電子メール】 seibu_kankyohozen@pref.tokushima.lg.jp
【ファクシミリ】 0883-53-2082

サポーター
クラブ
ホームページ



入会届
ダウンロード
ページ



個人または団体・企業のどちらかに、氏名等をご記入ください。

年 月 日

個人	ふりがな	
	氏名	
団体・企業	団体・企業の名称	
	代表職・氏名	
連絡先	住所・所在地	
	電話番号	
	ファクシミリ	
	メールアドレス	
関心のある活動、 参加してみたい活動、 に○印をつけてく ださい。 (複数回答可)	関心のある活動	<input type="checkbox"/> 自然保護：希少生物保護など <input type="checkbox"/> 環境教育：ネイチャースクール、クリーンウォークなど <input type="checkbox"/> 魅力発信：山歩き、アウトドア活動、SNS等での発信など <input type="checkbox"/> その他：エコツーリズム、() など
	参加してみたい活動	<input type="checkbox"/> ニホンジカ食害防止柵管理作業(植物の保護) <input type="checkbox"/> 登山道の点検・保守作業(登山者の安全、植生保護)
備考		

※会員の個人情報については、目的以外の使用はいたしません。

※電子メールアドレスをご記入いただいた方には、情報をメールでお送りします。

剣山 Supporter Club

一緒に環境保全活動できる仲間を募集中
剣山山系の自然に興味のある方をお待ちしています

あなたの『一歩』が、
剣山の未来を変える。



ニホンジカ 食害防護柵管理作業

剣山の貴重な植物をニホンジカの食害から守るため、ニホンジカ食害防護柵を設置しています。

ニホンジカ食害防護柵は植物の群生地周囲にポールを立ててネットを渡していますが、雪による破損を防ぐため、例年5月にネットの設置を行い、11月にネットを下げる作業を行っています。作業には、大学生の若者から常連のベテランさんまで、老若男女問わず多くのボランティアの方々に参加いただいています。

ニホンジカ食害防護柵は継続的な維持管理が欠かせません。管理作業の前には、剣山サポータークラブのホームページで参加者募集の案内を行っていますので、興味のある方は是非ご参加ください。

ニホンジカのことを教えて！

Q1 ニホンジカは、何を食べているの？ **Q2** ニホンジカは、剣山のどの辺りに生息しているの？

下草や木の若葉、樹皮、木の実など、剣山ではササも食べています。

ニホンジカは非常に適応力が高く、食べるものが限られた環境でも、その場で利用できる植物を選んで食べることができます。



かつてニホンジカの主な生息地は標高1,000m付近よりも低い山地が中心でしたが、生息域の拡大により、近年は剣山山頂にまで広く分布しています。

Q4 ニホンジカが増えすぎるとどんな問題があるの？

剣山では希少な高山植物や下層植生に対する食害が深刻な問題となっています。剣山特有の豊かな植生が失われるだけでなく、植生の消失は土壌浸食（土砂崩れ）の原因にもなります。



Q3 剣山でニホンジカは、なぜ増えたの？

主な原因：

●狩猟者の減少と高齢化

人間の手による捕獲圧でニホンジカの個体数を管理するのが難しくなっています。

●温暖化による積雪量減少

深い雪の中では、シカは自由に動けないため、雪には弱い動物です。このことが剣山山頂でのシカの生息を制限していましたが、現在は少ない雪の区域もモザイク的に存在するため、積雪時でも頂上周辺で生息する個体が多く確認されています。



Q5 どんな対策をしているの？

ニホンジカの「個体数管理（捕獲）」と「被害対策（防除）」の両輪で取組が行われていますが、個体数管理で飛躍的な成果を上げることは容易ではないため、被害対策を確実に継続していくことが特に重要です。剣山の植生を守るために行政機関だけでなく、研究者やボランティアの方々が協力し、防護柵等による防除が行われています。

サポーター インタビュー

内田忠宏さん
(徳島県希少野生生物保護巡視員)

経歴

1944年：池田町で生まれる

1962年：徳島県立池田高校山岳部を結成

1963年：当時の徳島電報電話局に入社

1964年：電徳徳島山の会結成に参加

2000年～：NPO法人三嶺の自然を守る会会員

2003～2012年：一の森ヒュッテ管理人に就任

2006年～：徳島県希少野生生物保護巡視員

2015年～：剣山サポータークラブ会員

Q1 剣山との関わりはいつからですか？



1961年7月高校2年生の時に貞光から葛籠登山口までバスで行き、見ノ越の万福寺で泊まったのが初めてでした。同年8月には剣山山頂上でテント泊をして、当時はガイドブックもなく三嶺に山小屋が出来たとの情報だけで地図を頼りに縦走しました。

Q2 剣山での体験で、最も心に残っている景色や思い出はありますか？



2000年初期までは、頂上稜線を覆うクマザサや針葉樹林の緑、その中に白く輝く白骨樹（枯れ木）の景観が絶景だったが、残念ながらシカ被害でササは低くなり、樹林には幼樹が消え、白骨樹が目立つようになった。しかし、朝の日の出は時として素晴らしいドラマを見ることができます。ヒュッテ管理人時代の特権はその日の出に出会えることでした。

Q3 自然保護活動に関わったきっかけは何ですか？

一の森ヒュッテ管理人となった頃からシカによるササの食害が目につきました。その後針葉樹の皮剥が急増し、丸石避難小屋周辺と肉刈尾根の調査に徳島県職員を案内したのが2005年でした。それから20年余り、自然保護活動に関わっています。

Q4 自然保護活動を続けていく中で、一番のやりがいは何ですか？



タカネバラ

サポーターの方たちと共に管理作業をしたニホンジカ食害防護柵の中に多様な植物が咲くことです。冬は雪被害防止のためにネットを降ろしているが、その間に木本のタカネバラが食べられていることに気が付き、そのネットを降ろさなくした。その結果、数年して開花して絶滅が防げたことです。

Q5 剣山の自然保護活動ではどのような活動をされていますか？

毎年、5月と11月に行われているニホンジカ食害防護柵管理作業に参加し、その後はネットの破損やシカの進入は無いかの点検活動を行っている。また、全域のシカ食害や植生の生育状況を観察しており、年に10数回は剣山に登っています。

Q6 内田さんご自身の今後の目標は何ですか？



私の人生に大きな影響をもたらしてくれた剣山への恩返しとして、自然を守ることを残された人生のライフワークとしています。その中でも鏡戸国有林には、幹周り390cmを超え全国巨樹ランク2位になるゴヨウマツの林があり、昨年はNPO法人剣山クラブの皆さんとラス巻をしました。皆さんの協力を得ながら、貴重な老樹たちを守って行きたいと思っています。

—— 最後に次世代の人たちに最も伝えたいメッセージをどうぞ！ ——

本来、山は多種多様な植物が相互に競争又は共存し、多様な生態系を作り出しており、人間が手を加える必要がありませんでした。しかし、シカ食害による生態系への被害は放置することが出来ないほど酷いものです。被害は一瞬であっても、生態系の再生には長い時間がかかります。

剣山があなたの助けを待っています！サポータークラブに加入し、剣山の自然を守る力になってください！

剣山SC
紹介動画
はこちら

